

タイトル～<規則改正後の新台遊技機>…「来年リリースとは限らない」

■「新規則対応」遊技機のリリース時期を読む必要性。

最近になって、『来年の機械動向が読めない』、『営業計画が立てられない』、『予算組が出来ない』と言う話を耳にする事が有ります。確かに、来年「2018年の営業」における【新機種のリリース】については、様々な憶測が流れ、様々な推測があり、思考停止に陥る可能性があります。

そこで、今後の【新規則の対応機のリリース】時期を検証してみようと思います。

■まずは、「遊技機開発」のタイムスケジュールを再確認。

最初に知っておいて欲しい事がある。それは『新しい遊技機の開発には、最低でも1年間が必要となる』と言う事。

それも、新機種のコンテンツが決まってからの話であり、「コンテンツ決定までのタイムラグ」を考慮すると、『普通に2年は掛かる』と言う結果になります。

とは言え、概ね「ビッグコンテンツ」と言われるものは、既に著作権獲得は終わって開発軸に乗っています。

ですが、メーカー開発側としては『大型著作権はそれなりのクオリティが求められる』訳で、「やっつけ仕事」と言う訳にも行かず、やはり開発時間は「それなりに必要」となる訳です。

仮に、コンテンツが決定しているとしても…

【開発=1年】⇒【保通協検査=3ヶ月】⇒【各公安検定=1ヶ月】⇒【営業=2ヶ月】…と「1年半」が必要となる。

■そして、「新規則遊技機」は、いつ頃リリースされるのか？

パチンコとスロットで若干変わると思われますが、少なくとも『今から1年以内にはリリースされない』事となる。

新規則遊技機においては、ホール側の懸念は当然なのだが、メーカー側も、『共に歓迎していない』事もまた事実。

これから「8月31日付け」にて、改正された規則が公布となる予定だが、それに準じて遊技機の開発が始まります。

<再確認>

【著しく射幸心をそそるおそれのある遊技機の基準】とは、これは即ち、<遊技機の適合検査基準>となる。

適合試験検査における「時間出玉率検査」の変更点(公布)

種別	旧			新			
	検査時間	出玉率		検査時間	出玉率		
		下限値	～ 上限値		下限値	～ 上限値	
パチンコ	1時間	なし	～ 300%	1時間	33.3%	～ 220%	※下限値設定
	***	***	～ ***	4時間	40%	～ 150%	※項目追加
	10時間	50%	～ 200%	10時間	50%	～ 133.3%	※上限値抑制
スロット	400G	なし	～ 300%	400G	33.3%	～ 220%	※下限値設定
	***	***	～ ***	1,600G	40%	～ 150%	※項目追加
	6,000G	なし	～ 150%	6,000G	50%	～ 126%	※下限値設定
	17,500G	55%	～ 120%	17,500G	60%	～ 115%	※数値圧縮

パチンコ・スロットそれぞれ、この【新基準】及び、【最大出玉制限】、【(パチンコ)新MNRS値】において、「保通協の適合検査」が、まだまだ先の半年後となる【2018年2月1日】から開始される事となる。

■<パチンコ>新規則遊技機」は？

<パチンコ>においては・・・メーカーは、【今から「1月31日」までの保通協検査申請リミット日まで】は、現状の遊技機規則にて開発されたスペック(16R出玉=2,000個オーバースペック)を持ち込む事が、先ず必要条件となる。仮に、数機種種の検定通過をしたならば、それだけで2018年は十分なリリース数が確保できる事になります。結果的に、今から一年後、「2018年の8月盆前」までは、現行スペックに基づいたスペックになりますね。

では、『来年2018年の年末は？』・・・となるが、来年末には【最大ラウンド=10R・最大出玉=1,500個】対応の機種がリリースされるであろう。・・・がしかし、それが即『現行スペックより劣る』訳でもない。現行の「CRスーパー海物語 in 沖縄4」にしても、『実質出玉=1,400個』で、『MNRS値は、10以下』でもあり、スペック上での大きなショックは無い。但し、一つの懸念は「最大10ラウンドとなる(案)」事だけが残りますけど・・・
まあその時になったら、『いわゆる「良い機械」を選択すれば良い』だけの事で、今から心配する事では無い。

■<スロット>新規則遊技機」は？

<スロット>においては・・・誰もが知っている通り、『5.5号機は9月のリリースまで』となる。よって、今年の「2017年10月から」は【5.9号機のみ】の販売に限定されている。いよいよ本格的な「5.9号機時代」の到来になる。そしてそれは、基本的には『1年以上のリリース期間となる』訳で、今は「ほとんどのメーカーが、開発～検定～販売」を計画していると思われる。

ただし、5.9号機には「2つの流れ」があって、一つは【Aタイプ】と呼ばれるもの、もう一つは【ART搭載(有利区間1,500ゲーム・傾斜値=ボーナス込み2.0枚)機】仕様のものとなる。既にAタイプ仕様機種はリリースされているが、ART搭載仕様機は、多くても「今年年内に、5～7機種程度」と予測される。

・・・がしかし、ホールさんとしては『ぶっちゃけ、使えるのか？』の疑問は根強く、当然ながら『購入意識は低くなる。』現実的には、「お試し導入」的な見地で、営業データが出揃ってから、『今後の2018年を見定める』事になります。併せ、【今年年末の新規店舗】に関しても、『ほとんどが、中古の5.5号機が中心となる』事は容易に推測され、それも『2年間(以上)の検定期間が残っている』訳で、5.9号機への移行は緩くなると推測される。

では、【新規則=6号機】の開発は、今後どうなるのか？

基本的に、『今現状では6号機開発は停止中。5.9号機開発が優先事項』となる。その理由は「ただ一つ」。『ARTが役物扱いとなり、設定差による「ART出玉率差」が可能かどうか？』について、今まだ検討・要望中であって、『その可否について、行政側からの答えが得られていない・・・とされているから』になる。

この問題がクリアされるならば、『5.9号機の最大の懸念である「ARTの設定差が無い」』事が払拭されれば、メーカーは、いよいよ「6号機」の開発が進むと予想されます。

それまでは、「下限値設定」がされ、明らかに検定が通り難い(=保通協検査で試験通過し難い)様なギリギリスペックの開発は、現状で進行させる理由も見当たらない。

いずれにしても私は、『来年の遊技機がダメ機！』と言う意見に関しては、論理的根拠にて完全否定です。また、『2018年の営業は、今年と多くは変わらない』と断言しておく。仮に、「新規則案がそのまま公布された」としても、即『機械がダメになる』と言う訳でもなく、【射幸性が下がると言われる遊技機の未来】に対して、『全てがダメになる』と言う意見とは、完全に「対極的な思考」をしています。

<このコラムは、無料コンテンツに該当しております。情報共有可としますが、転載・改ざん等はお控えください>
<また、文章・資料等の所有権は、「有限会社トータル・ノウ・コネクションズ」に帰属いたします>